

令和4年度
九州老人福祉施設職員研究Web大会（沖縄大会）
開 催 要 綱

1 大会主題 「総合力を高めよう！ 介護現場の力 in おきなわ」
～新たな扉は、私たち自身の手で開く～

2 趣 旨

新型コロナウイルスによる感染症の猛威を受け、私たちは否応なしに新しい日常へと突入しました。

また、福祉の現場においては、コロナ禍においても必要な福祉サービスが継続的に提供できるような体制の構築が求められています。同時に団塊の世代全員が75歳以上となる2025年を目前に控え、時代とともに変化してきた介護業界は、これまで取り組んできた働き方改革、生産性向上、介護人材の確保と育成等に加え、科学的裏付けのある専門知識や技術をもって、多職種が協働しながら高齢者を支援していく介護のさらなる推進も求められています。

そのような新たな転換点を迎えた今、高齢者の尊厳を保持し、その人らしく、有する能力に応じた自立支援はどうあるべきか。併せて福祉サービスの提供を持続し続けるには、どうすべきか。本大会は、それらを学ぶ目的で、九州各県の老人福祉施設の最新の取組事例や研究発表の場として開催します。

一人ひとりの成長が社会福祉法人・施設の総合力を高め、新たな日常における地域包括ケアシステムの推進力となり、地域共生社会の実現へとつながります。

さあ、ともに学び、これからは私たち自身の手で新しい日常の扉を開けましょう。

3 主 催 九州社会福祉協議会連合会 九社連老人福祉施設協議会
沖縄県社会福祉協議会 沖縄県老人福祉施設協議会

4 共 催 公益社団法人全国老人福祉施設協議会

5 後 援 沖縄県

6 開催方法 Web環境におけるオンデマンド配信（事前録画した講演・発表動画を配信）

7 配信期間 令和4年8月1日（月）～8月31日（水）※期間中いつでも視聴可能

8 参加対象

- (1) 老人福祉施設、通所介護事業所の役職員
- (2) 県市区町村行政機関の職員
- (3) 県市区町村社会福祉協議会の職員
- (4) その他関係者（訪問介護事業所、グループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所 等）

9 配信内容

○全体

内 容	所要時間	詳 細
主催者挨拶	6分	九社連老人福祉施設協議会 会長 金城 武 氏 沖縄県老人福祉施設協議会 副会長 中真 靖 氏
基調報告	30分	公益社団法人 全国老人福祉施設協議会
行政説明	30分	厚生労働省
記念講演	90分	「研究からのビジネス展開～BodySharingの場合～」 H2L, Inc. CEO／琉球大学 工学部 教授 玉城 絵美 氏
次期開催県挨拶	3分	福岡県老人福祉施設協議会 会長 永原 澄弘 氏

○研究部会

研究部会名	テーマ
第1研究部会	科学的介護の実現（認知症ケア・看取り介護）
第2研究部会	高品質の施設サービスをめざして（ADL・QOL向上）
第3研究部会	社会福祉法人・施設の更なる取り組み
第4研究部会	人材確保・育成・介護の魅力発信等への取り組み
第5研究部会	「看護・介護・栄養・地域」多職種連携による施設ケア
第6研究部会	在宅サービスの実践と課題
第7研究部会	軽費・ケアハウスの課題と展望
第8研究部会	養護老人ホームの実践と課題

《 記念講演講師プロフィール 》

H2L, Inc. CEO／琉球大学 工学部 教授 玉城 絵美 氏

人間とコンピュータ間の情報交換を促進することによって、豊かな身体経験を共有するBodySharing(ボディシェアリング)とHCI研究とその普及を目指す研究者兼起業家。

2011年にコンピュータからヒトに手の動作を伝達する装置「PossessedHand(ポゼストハンド)」を発表。分野を超えて多くの研究者に衝撃を与え、CNN や ABC での報道、米Time 誌が選ぶ 50 の発明に選出。同年には東京大学にて総長賞受賞と同時に総代をつとめ博士号を取得、2012年にH2L,Inc.を創業。2013年より早稲田大学人間科学学術院 助教。2015年にKickStarterにて世界初触感型コントローラ「UnlimitedHand(アンリミテッドハンド)」を発表し22時間で目標達成。内閣府 総合科学技術・イノベーション会議にて総合戦略に関する委員も務める。2017年より早稲田大学 創造理工学研究科 准教授。新たなBodySharingの研究プロダクトである「FirstVR(ファーストバイアール)」は、NTTドコモ5Gとの連携を2019年に発表。2020年にはホログラムで遠隔地に出勤する「HoloD(ホロディ)」を発表し、多数の企業でトライアルが始まっている。

同時に、研究ではHCIの国際会議AugmentedHuman(オウグメンテッド ヒューマン)にて、近年で最も推奨される研究論文として表彰される。2021年4月より琉球大学 工学部 教授。

PossessedHand, UnlimitedHand, FirstVR, HoloD は、基礎から応用まで多くの研究者に利用されると同時に、BodySharing サービスへと展開している。



10 研究発表

- (1) 研究発表は、各県から推薦するものとします。
- (2) 発表時間は、1人15分程度とします。
- (3) 各研究部会に、4名の審査委員（審査委員長、施設長審査委員、職員審査委員、開催県審査委員）を設置し、特に優秀な発表者（優秀賞、奨励賞）を選出します。

11 表 彰

- (1) 九州社会福祉協議会連合会会長表彰について、別に定められた顕彰規程により対象者に表彰状又は感謝状を贈呈します。
- (2) 各施設においては、誤字・脱字、勤続年数の算定等を確認したうえで、6月17日(金)までに各県・市老施協事務局へ「表彰推薦書」を提出するものとします。
- (3) 各県・市老施協事務局は、各県社協と調整のうえ、顕彰規程に基づく被表彰者の「表彰推薦書」等を、6月24日(金)までに大会事務局(沖縄県老施協事務局)へ提出するものとします。

12 参加申込

※申込期日を7月15日(金)まで延長いたしました。

今大会の参加申込の取りまとめについては、名鉄観光サービス株式会社沖縄支店が行います。

- (1) 参加を希望する施設は、名鉄観光サービス株式会社の参加申込画面(下記参照)から6月24日(金)までに申し込むものとします。

【参加申込URL】 <http://www.mwt-mice.com/events/kyushu-roushikyo2022>

※以下からも参加申込画面に繋がります。

沖縄県社会福祉協議会ホームページ (<https://www.okishakyo.or.jp/>)

トップ画面→「研修会・大会等(お申し込みはこちら)」→研修名:令和4年度九州老人福祉施設職員研究Web大会(沖縄大会)の「WEB申込み」をクリック

- (2) 参加費の入金確認後、名鉄観光サービス株式会社沖縄支店から配信期間の3日前までに「大会動画視聴案内」を、参加申込画面で登録した各施設のメールアドレス(以下、「施設メールアドレス」)あてにお送りいたします。

13 参加費

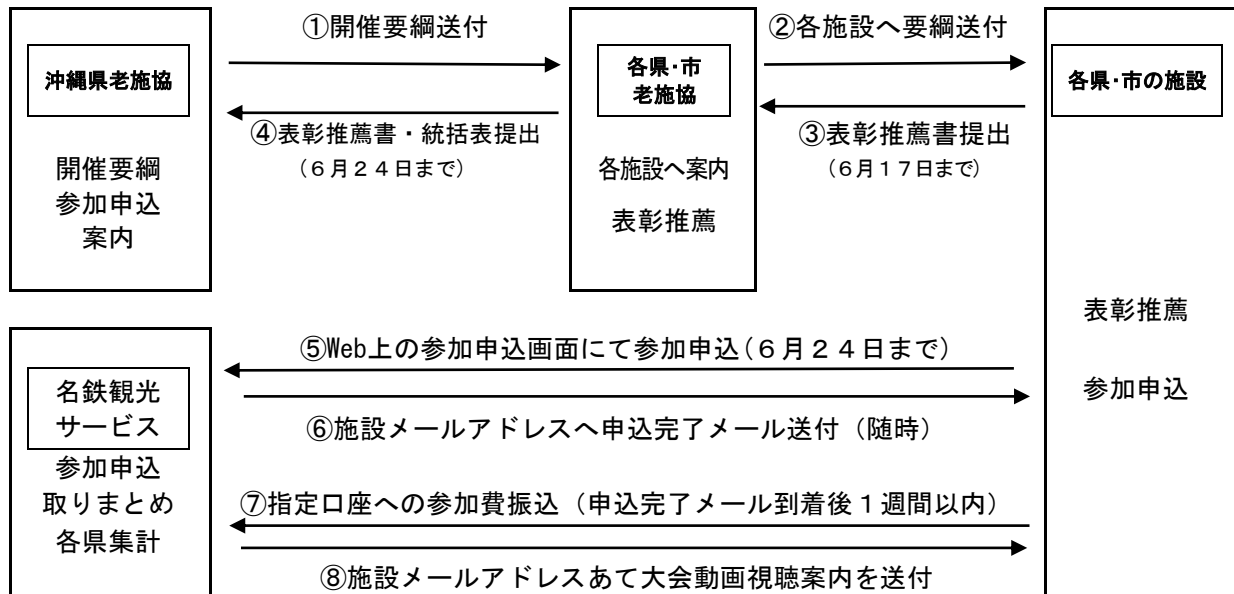
- (1) 大会参加費 会員施設 8,000円 / 非会員施設 12,000円(共に1施設あたり)

※会員とは、九社連老人福祉施設協議会の正会員及び準会員をいいます。

※会員施設と同一法人のグループホーム、訪問介護事業所等については、非会員であっても本大会に限り会員とみなして8,000円とします。

- (2) 上記12(1)の手続きにより参加申込をした施設には、施設メールアドレスあてに「申込完了メール」が届きます。当該メールに記載された内容に従って、申込完了メール到着後1週間以内に指定の口座へお振込みください。
- (3) 「申込完了メール」到着後1週間以内にお振込みがない場合は、参加申込が無効になりますのでご注意ください。なお、申し込み後の参加費は返金しません。

14 申し込み等の主な流れ



15 個人情報の取り扱い

本大会での個人情報の取り扱いについては、大会運営に関する業務以外の目的には使用しないものとします。

16 留意事項

下記の行為は、主催者及び講師の知的財産権、肖像権、プライバシーの権利等を侵害する行為となりますので、固く禁止いたします。

- (1) 配信期間において、参加申込施設以外の方との視聴・画面共有を行うこと。
- (2) URLを参加申込施設以外の方に提供すること。
- (3) 不特定多数の方が閲覧できるブログやSNS（Twitter、Facebook等）にURLを掲載すること。
- (4) 配信された内容を録画等して、動画共有サイト等へアップロードすること。

17 大会事務局

沖縄県老人福祉施設協議会 事務局 担当 丸山・佐久川

〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 県総合福祉センター西棟4階

沖縄県社会福祉協議会 施設団体福祉部

TEL：098-887-2000 FAX：098-887-2024

E-mail：roushikyo@okishakyo.or.jp

18 参加申込手続き担当業者（大会参加申込先）

名鉄観光サービス株式会社 沖縄支店 担当 前澤・原・林

〒900-0032 沖縄県那覇市松山1-1-14 那覇共同ビル2階

TEL：098-862-8211 FAX：098-862-8212

【研究部会テーマ 趣旨・ポイント】

第1研究部会	テーマ 「科学的介護の実現（認知症ケア・看取り介護）」
<p>〔趣旨〕</p> <p>後期高齢者や認知症高齢者の増加、福祉・介護の担い手不足、私たちを取り巻く社会環境の変化に伴い、質的・量的な介護ニーズも日々変化しています。</p> <p>これにより、介護現場の革新と科学的介護の実現を通じた、より高品質な介護サービスの創造が期待されています。これまでの様々なエビデンスをこれからの介護に生かすために、科学的介護の取り組みを基本として効果的・効率的な、新たな介護体制の構築が求められています。</p> <p>本研究部会では、新たな介護のあり方について取り組むべきことを明確にし、介護新時代を見据えて研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的介護情報システム（LIFE）の活用 ・ 認知症BPSDケアプログラムの取り組み ・ 看取り介護 ・ 口腔ケア ・ 医行為（喀痰吸引、経管栄養） ・ 栄養ケアマネジメント <p style="text-align: right;">等</p>	

- 発表① 福岡県：特別養護老人ホーム 共生の里津福
「『施設で看取る』ことの現状と課題～末期食道がんの看取り事例を通して～」
- 発表② 北九州市：春吉園
「ADLでの立位姿勢継続が与える影響について」
- 発表③ 福岡市：ライフケア柏原
「住み慣れた『とこ』でいつまでも～看取り介護～（仮）」
- 発表④ 佐賀県：歌垣之園
「地元消防団・ボランティアとの連携と看取り介護（仮）」
- 発表⑤ 大分県：やすらぎの里
「その方の望まれる看取りを目指して
～入居者・ご家族が納得し満足できる看取りケアを地域で支える～（仮）」
- 発表⑥ 宮崎県：特別養護老人ホーム ひなもり園
「『睡眠』を切り口とした科学的介護への挑戦」
- 発表⑦ 鹿児島県：さざんか園
「科学的介護情報システム(LIFE)のフィードバックの活用事例
～低栄養状態の改善に向けた取り組み～（仮）」
- 発表⑧ 沖縄県：特別養護老人ホーム 朝日の家
「コロナ禍における面会制限がもたらした影響～食思改善に向けての取り組み～」

第2研究部会	テーマ 「 高品質の施設サービスをめざして（ADL・QOL向上） 」												
<p>〔趣 旨〕</p> <p>利用者の高齢化・重度化により、医療ニーズの高い利用者が増加しており、老人福祉施設は、利用者のニーズに対応するために高い専門性が求められています。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により面会自粛等、様々な活動が制限されています。</p> <p>このような状況を踏まえ、個々の状態に応じた施設サービスを提供するために、多職種協働によるケアの実践とエビデンスによるケアの提供、「高品質の介護サービスの提供」が、ますます高まっています。</p> <p>本研究部会では、利用者のADL・QOL向上を目的とするリハビリテーション、排泄ケア、アクティビティ等の取り組みについて各施設の実践を通し、現状と課題を探り今後の取り組みについて研究します。</p>													
<p>〔ポイント〕</p> <table border="0"> <tr> <td>・機能訓練（リハビリテーション）</td> <td>・ADL改善やQOL向上に向けた取り組み</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・記録活用とアウトカム評価</td> <td>・排泄ケア</td> <td>・睡眠</td> </tr> <tr> <td>・健康寿命延伸に向けた重度化予防</td> <td>・アクティビティ</td> <td>・ポジショニング</td> </tr> <tr> <td>・多職種連携</td> <td>・自立支援</td> <td>・個別ケア</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">等</p>		・機能訓練（リハビリテーション）	・ADL改善やQOL向上に向けた取り組み		・記録活用とアウトカム評価	・排泄ケア	・睡眠	・健康寿命延伸に向けた重度化予防	・アクティビティ	・ポジショニング	・多職種連携	・自立支援	・個別ケア
・機能訓練（リハビリテーション）	・ADL改善やQOL向上に向けた取り組み												
・記録活用とアウトカム評価	・排泄ケア	・睡眠											
・健康寿命延伸に向けた重度化予防	・アクティビティ	・ポジショニング											
・多職種連携	・自立支援	・個別ケア											

発表① 福岡県：日本赤十字社福岡県支部 特別養護老人ホーム やすらぎの郷
「見守り機器を導入し、居室で過ごせるようになった事例（仮）」

発表② 北九州市：北九州シティホーム
「高品質サービスへの取り組み」

発表③ 福岡市：マナハウス
「胃ろうを介護職の業務へ～介護ロボットを使って、時間を産み出せ！～（仮）」

発表④ 佐賀県：すみれ園
「快適な排便リズムを目指して」

発表⑤ 長崎県：虹の里
「重度化する特養でのリハビリ」

発表⑥ 宮崎県：特別養護老人ホーム 皇寿園
「口腔ケアの重要性と生活に与える影響～多職種連携によるチームアプローチ～」

発表⑦ 鹿児島県：秋光園
「排せつケアの見直しと取り組み（仮）」

発表⑧ 沖縄県：特別養護老人ホーム まえさと茶寿苑
「ケアプランに基づいた介護の実践～短期目標の実施と介護記録との連動～」

第3研究部会	テーマ 「社会福祉法人・施設の更なる取り組み」												
<p>〔趣 旨〕</p> <p>地域社会における施設のセーフティーネットとしての機能は、更なる推進が求められています。地域の抱える課題に対応すべく、私たち社会福祉法人も、新たな行動を開始して施設としての役割や使命を果たすべきことが大事になってきました。</p> <p>本研究部会では、施設の総合力が問われる時代になってきた中、今一度、社会福祉の原点に立ち返り、施設や地域が抱える課題やそれに対する取り組み、又、今あるべき社会福祉法人・施設の姿について研究します。</p>													
<p>〔ポイント〕</p> <table border="0"> <tr> <td>・災害時の施設の取り組み</td> <td>・既存の社会資源との連携</td> </tr> <tr> <td>・働き方改革への取り組み</td> <td>・事務、業務の効率化の取り組み</td> </tr> <tr> <td>・ペーパーレス化・記録の電子化</td> <td>・社会福祉法人戦略（経営・運営）</td> </tr> <tr> <td>・地域貢献活動（校舎跡地利用事業等）</td> <td>・介護保険外サービスの取り組み</td> </tr> <tr> <td>・財務分析による経営の合理化、適正化</td> <td>・経営組織の透明性確保の取り組み</td> </tr> <tr> <td>・小規模法人のネットワーク化による経営効率化</td> <td>等</td> </tr> </table>		・災害時の施設の取り組み	・既存の社会資源との連携	・働き方改革への取り組み	・事務、業務の効率化の取り組み	・ペーパーレス化・記録の電子化	・社会福祉法人戦略（経営・運営）	・地域貢献活動（校舎跡地利用事業等）	・介護保険外サービスの取り組み	・財務分析による経営の合理化、適正化	・経営組織の透明性確保の取り組み	・小規模法人のネットワーク化による経営効率化	等
・災害時の施設の取り組み	・既存の社会資源との連携												
・働き方改革への取り組み	・事務、業務の効率化の取り組み												
・ペーパーレス化・記録の電子化	・社会福祉法人戦略（経営・運営）												
・地域貢献活動（校舎跡地利用事業等）	・介護保険外サービスの取り組み												
・財務分析による経営の合理化、適正化	・経営組織の透明性確保の取り組み												
・小規模法人のネットワーク化による経営効率化	等												

発表① 福岡県：特別養護老人ホーム 松寿園
「各職種連携と働きやすい職場作り」

発表② 北九州市：シルバー・サン・ホーム
「リニューアルを迎える法人・施設について（仮）」

発表③ 福岡市：能古清和園
「能古島から介護を変える～眠りスキャン導入を通して～」

発表④ 佐賀県：介護保険総合ケアセンター シオンの園
「地域における社会福祉法人の使命と役割
～住民主体の活動を支え、地域と共にあゆんでいく～」

発表⑤ 長崎県：かけはし木場
「ノーリフティングケアへの挑戦から定着へ」

発表⑥ 熊本県：桜の丘
「新型コロナウイルス感染症に対応できるBCPの作成～クラスターを経験して～」

発表⑦ 鹿児島県：愛寿園
「ICT機器導入による記録の電子化及び業務の簡素化（仮）」

発表⑧ 沖縄県：特別養護老人ホーム 愛誠園
「非常災害時の地域貢献に向けて～津波発生時の避難場所としての役割～」

第4研究部会	テーマ 「人材確保・育成・介護の魅力発信等への取り組み」
<p>〔趣 旨〕</p> <p>人材確保は福祉だけではなく、どの業種においても喫緊の課題です。</p> <p>このような状況下で介護人材を確保しつつ、限られた人材で業務効率性を上げ、介護の質を高めるためには、これまでの介護サービスの内容を見直すことが重要になります。</p> <p>また、ご利用者・ご親族・地域を含めた、介護に対するマインドチェンジが必要になります。</p> <p>本研究部会では、このような状況の中で、ご利用者個々のサービスの向上をはかり、IoTとAIを用いた特色ある施設を創るために必要な人材について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の取り組み ・職場の人間関係の取り組み ・業務改善の取り組み ・業務改善へのIT化への取り組み ・業務改善へのIT以外の取り組み ・業務改善への在宅ワークへの取り組み ・福利厚生 ・人材育成の取り組み ・働きやすい職場の取り組み ・業務改善への業務削減の取り組み ・業務改善への社内コミュニケーションツールの取り組み ・業務改善のサービス標準化への取り組み ・業務改善へのご家族連絡方法への取り組み ・求人、採用戦略 ・人事考課 ・キャリアアップ ・フレックス勤務 等 	

発表① 福岡県：特別養護老人ホーム 桜の丘
「ノーリフティングケアの実践を通して働きやすい環境づくりで利用者も職員も幸せ～腰痛での介護職員離職者ゼロ～（仮）」

発表② 北九州市：あますみ園・ケアイン大鳥居
「社会福祉法人の人材確保における取組み」

発表③ 福岡市：なごみの里
「『育つ』施設に変わった7年間の軌跡
～キャリアパス・研修・OJT・ICT・リクルート・ワクワク感～」

発表④ 佐賀県：玄海園
「新たな人材確保に向けた取組み（仮）」

発表⑤ 長崎県：のぞみの社
「介護ロボット・ICT導入への取組み（仮）」

発表⑥ 熊本県：るり苑
「ナラティブノート～お一人おひとりのかけがえのない『物語』を紡ぐ」

発表⑦ 大分県：若葉苑
「若葉苑におけるノーリフティングケアの取組み
～アンケートから見えてきたもの～（仮）」

発表⑧ 沖縄県：特別養護老人ホーム 本部園
「人材確保における現状と課題～職員の定着・求人・採用への取組み～」

第5研究部会	テーマ 「『看護・介護・栄養・地域』多職種連携による施設ケア」
<p>〔趣 旨〕</p> <p>介護施設の入所者は重度化傾向にあります。そのような中、世界的に新型コロナウイルスが猛威を振るい、重症化リスクの高い高齢者をケアする施設においては、感染拡大防止対策として面会制限を設けざるを得ない状況になり、これまで以上に医療ニーズ及び家族との連携が高まっています。</p> <p>加えて近年の慢性的な人材不足の中では、多職種連携による高齢者を支える仕組みづくりが今後ますます重要になってきます。</p> <p>また、住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の更なる構築に向けて、地域の特性を踏まえ、地域の社会資源として介護施設が果たす役割について考えていかなければなりません。</p> <p>本研究部会では、看護・介護・栄養・地域との連携の取り組みについて研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重度化及び新型コロナウイルス等感染症に伴う医療ニーズの取り組み ・ 多職種連携による施設ケアの更なる取り組み ・ 家族及び地域との連携 ・ フォーマル、インフォーマルな社会資源の活用 ・ 地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み <p style="text-align: right;">等</p>	

- 発表① 福岡県：特別養護老人ホーム ことぶきの森
「地域密着型特養の特性を活かした地域連携のフレイル予防について」
- 発表② 北九州市：花の王善興園
「医療・介護・地域との連携」
- 発表③ 福岡市：寿生苑
「コロナ禍における多職種連携によるケアの取り組み」
- 発表④ 佐賀県：佐賀整肢学園・かんざき清流苑
「地域貢献事業 地域交流食堂こんね comelについて」
- 発表⑤ 熊本県：くわのみ荘
「やっぱり普通のパンツがいいよね～紙パンツ・紙オムツゼロを目指して～」
- 発表⑥ 大分県：妻垣荘
「命を守る為に～私達の施設は土砂災害特別警戒区域内～（仮）」
- 発表⑦ 宮崎県：複合型福祉施設ウエルグラウンズ高鍋
(特別養護老人ホーム鈴山荘、養護老人ホームもくせい苑合同チーム)
「『輪と和で克服！新型コロナ』～高齢者施設における新型コロナウイルス・クラスタの発生と、全職員、地域、社会資源で克服した全記録～（仮）」
- 発表⑧ 沖縄県：介護老人福祉施設 嬉の里
「『これが私の命ぐすい』～心に寄り添うチームケア～」

第6研究部会	テーマ 「在宅サービスの実践と課題」
<p>〔趣 旨〕</p> <p>私たちは、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいます。その2025年が近づく中、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年には介護ニーズの高い85歳以上人口が1,000万人を超え、介護サービス需要が更に増大・多様化することが想定されています。このような状況は地域によって介護ニーズが異なるため、地域の特性に応じた在宅サービスの実践が求められています。</p> <p>私たちは、その特性に応じた在宅サービスを地域の様々な関係者と連携しながら提供し、高齢者を支えていかなければなりません。</p> <p>本研究部会では、今後、重要度が高くなる在宅サービスの質、評価の取り組み、科学的介護、自立支援・重度化防止等の在宅サービスの実践、課題について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防サービスの取り組み ・ 在宅サービスにおける医療との連携 ・ 認知症ケア ・ 保険外サービスの取り組み ・ 科学的介護（LIFE）の取り組み ・ その他ICTを活用した在宅支援の取り組み ・ 自立支援等に資する機能訓練の取り組み ・ 共生型サービスの取り組み ・ 他事業所とのサービスの差別化と工夫 <p style="text-align: right;">等</p>	

発表① 北九州市：デイサービスセンター 聖ヨゼフの園

「デイサービスでの調理活動がもたらした『輝き』」

発表② 福岡市：ムーンシャドウ

「地域の介護ニーズを踏まえたサービスの差別化と実践」

発表③ 長崎県：デイサービスセンター あいのうら

「脳トレ・健康レク～楽しく健康維持を目指そう!!～」

発表④ 熊本県：さわらび

「”おたがいさま”を通して考えた障がい者の雇用拡大に向けて
～先入観にとられない仕事の在り方～」

発表⑤ 大分県：やすらぎの里デイサービスセンター

「お尻に根が生えていませんか？（仮）」

発表⑥ 宮崎県：三納の里デイサービスセンター

「パーキンソン病におけるデイサービス利用時の関わりと経過（仮）」

発表⑦ 鹿児島県：デイサービスセンター 湯の里

「声活！～心も体も喉から健康に（仮）」

発表⑧ 沖縄県：指定通所介護事業所 えーじ

「中高年のご利用者様の居場所づくり～ご本人とご家族のサポートの在り方～（仮）」

第7研究部会	テーマ 「 軽費・ケアハウスの課題と展望 」								
<p>〔趣 旨〕</p> <p>これまで、軽費老人ホーム及びケアハウスで日々実践されている様々な活動や支援内容等について多くの研究・報告がなされ、地域包括ケアシステムにおける軽費・ケアハウスの役割について議論されてきました。</p> <p>本研究部会では、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年を目前に、改めて軽費・ケアハウスの果たすべき役割と実践並びに課題について共有し、議論を深め、地域包括ケアシステムにおける軽費・ケアハウスの将来の展望について研究します。</p>									
<p>〔ポイント〕</p> <table border="0"> <tr> <td>・軽費老人ホーム・ケアハウスの現状と課題</td> <td>・住まいの多様性</td> </tr> <tr> <td>・ケアハウスにおける特定施設の課題</td> <td>・介護予防・認知症予防等の取り組み</td> </tr> <tr> <td>・介護保険以外の生活支援サービスの取り組み</td> <td>・医療との連携</td> </tr> <tr> <td>・地域との交流・連携</td> <td>・災害・感染症への対応</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">等</p>		・軽費老人ホーム・ケアハウスの現状と課題	・住まいの多様性	・ケアハウスにおける特定施設の課題	・介護予防・認知症予防等の取り組み	・介護保険以外の生活支援サービスの取り組み	・医療との連携	・地域との交流・連携	・災害・感染症への対応
・軽費老人ホーム・ケアハウスの現状と課題	・住まいの多様性								
・ケアハウスにおける特定施設の課題	・介護予防・認知症予防等の取り組み								
・介護保険以外の生活支援サービスの取り組み	・医療との連携								
・地域との交流・連携	・災害・感染症への対応								

発表① 福 岡 市：桜ガーデン生の松原

「多様化する入居者ニーズに対してケアハウスとしてできること
～より長く住み慣れた場所で生活するための支援について～」

発表② 佐 賀 県：ケアハウスみふね

「アルコール依存症の入居者への対応」

発表③ 長 崎 県：老友荘

「固定概念が邪魔してました～老友荘式『これまで通り』を脱却するための
取り組みのすべて～」

発表④ 熊 本 県：ゆいの家

「コロナの軌跡～『コロナウイルス撲滅』罹らない・うつさない・持ち込ませない～」

発表⑤ 大 分 県：ケアハウス豊友館

「利用者が輝ける生活を支援する～ケアハウスにおける科学的介護の実践～（仮）」

発表⑥ 宮 崎 県：ケアハウスれいめい館

「当館における業務改善について（仮）」

発表⑦ 鹿 児 島 県：ケアハウスなでしこ

「ケアハウスの現状と課題（仮）」

発表⑧ 沖 縄 県：ケアハウスふくぎ苑

「新型コロナウイルス感染症における面会制限の考え方（仮）」

第8研究部会	テーマ 「養護老人ホームの実践と課題」
<p>〔趣 旨〕</p> <p>養護老人ホームは、長年にわたり措置施設としての役割を担ってきました。近年では、高齢化社会の進展に伴い、介護ニーズや精神障害者の社会的入院の解消、生活課題を抱える低所得の高齢者の増加が見込まれ、併せて新型コロナウイルス感染拡大で医療崩壊等、居宅での生活が困難な状況が生じている中、諸課題に対応する地域の受け皿として、措置施設である養護老人ホームの果たすべき役割はますます重要なものになってきています。</p> <p>一方、養護老人ホームの措置状況を見ると、本来措置されるべき高齢者が適切な支援を受けらず、地域によって入所の割合等に格差が生じています。加えて介護（支援）職員の慢性的な人材不足は解決の糸口も見いだせず、質の高いサービス提供に不可欠な職員研修の実施も困難な状況となっています。</p> <p>本研究部会では、そのような養護老人ホームの現状の課題を踏まえ、今後のあるべき姿や養護老人ホームとしての良質なサービスをどのように提供していくべきかについて研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的困難者（生活困窮、精神疾患、社会復帰者（刑務所等出所者））の受入れ ・入所者の高齢化、重度化 ・地域医療との連携 ・良質な介護（支援）サービスの提供 ・福祉人材の確保・育成（福祉未経験者・外国人研修生を含む） ・養護老人ホームにおける契約入所 ・特定施設（外部サービス利用型、一般型、個別契約型含む） ・感染症（新型コロナウイルス）対策 等 	

発表① 福 岡 県：養護老人ホーム遠賀静光園

「安心して暮らせる日々をめざして」

発表② 佐 賀 県：松尾山大成園

「入所者の多様性への対応と重症化における地域医療との連携（仮）」

発表③ 長 崎 県：湧泉荘

「私が望む最期～いつの日か鎌倉の海へ～」

発表④ 熊 本 県：延寿荘

「契約入所運用の効果について～慢性的な定員割れの解消に向けて～」

発表⑤ 大 分 県：久住高原南山荘

「日中活動の充実～『昔はこんなことしてた』を実践～（仮）」

発表⑥ 宮 崎 県：養護老人ホーム照葉

「新型コロナウイルス感染対策について」

発表⑦ 鹿児島県：吉田寿康園

「中核市からの民間移譲に伴う業務の効率化と収支改善の取り組みについて（仮）」

発表⑧ 沖 縄 県：特別養護老人ホーム・養護老人ホーム 八重山厚生園

「当園養護老人ホームの現状と課題～要介護入所者の増加と今後の展望～」

九州社会福祉協議会連合会顕彰規程

(趣 旨)

第1条 社会福祉の増進に積極的な活動を続け、その功績が顕著なものの表彰は、この規程による。

(顕彰の方法)

第2条 この規程による顕彰は、九州社会福祉協議会連合会（以下「九社連」という。）並びに業種別協議会が実施する研究大会など各種集会において行う。

2 顕彰を受けるものは、九社連会長名の表彰状又は感謝状を贈呈する。

(顕彰の対象と範囲)

第3条 顕彰の対象並びに顕彰に該当するものは、次のとおりとする。ただし、既往において九社連会長の表彰を受けたものは除く。

2 第一種社会福祉事業において13年以上その業務に従事し功績が顕著であって現に在職しているもの。

3 第二種社会福祉事業において15年以上その業務に従事し功績が顕著であって現に在職しているもの。

4 前2項の規定にかかわらず、第一種社会福祉事業と第二種社会福祉事業の従事年数が通算15年以上あり、功績が顕著であって現に在職しているもの。

5 民生委員児童委員として14年以上その業務に従事し功績が顕著であって現に在職しているもの。この場合において従事期間の基準日は、表彰年前年の11月30日とする。

6 社会福祉協議会の役職員として15年以上その業務に従事し功績が顕著であって現に在職しているもの。

7 里親として通算4年以上その業務に従事し功績が顕著であるもの、もしくは県知事表彰、県社協会会長表彰又は県里親会長表彰のいずれかを受けているもの。

8 その他特に表彰の必要があると認められるもの。

(推薦の手続き)

第4条 九州各県市社会福祉協議会会長は、別に定める推薦書を添付して九社連会長に推薦するものとする。

(顕彰の決定)

第5条 九社連会長は、九州各県市社会福祉協議会会長の推薦に基づいて決定する。

附 則

1 この規程は、昭和52年4月1日から施行する。

2 業種別協議会会長が特に必要と認める場合は、九社連会長の承認を得て、当該協議会長の表彰を行うことができる。

3 この規程は、平成19年2月27日から施行する。

4 この規程は、平成21年2月25日から施行する。

九州社会福祉協議会連合会会長表彰推薦書

推 薦 順 位	第 位			
ふ り が な 氏 名		職 名		性 別
生 年 月 日	年 月 日（満 歳）			
現 住 所	〒			
施 設 名			勤 続 年 数	年 月 (令和4年4月1日現在)
履 歴	最 終 学 歴			
	業 歴			
	既往における 表彰の有無			
表 彰 推 薦 に 値 する 事 項				
参 考 事 項				
上記の者を推薦いたします。 令和 4年 月 日 <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> 推 薦 者 氏 名 印 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> 施 設 名 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> 施 設 所 在 地 〒 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; margin-top: 10px;"> TEL — — FAX — — </div>				